

マラウイのコミュニティ・チャイルドケア・センターの設立経緯と拡充

谷口 京子 (広島大学)

Establishment History and Expansion of Community-Based Childcare Centres in Malawi

Kyoko Taniguchi (Hiroshima University)

本稿は、近年、マラウイで拡充しているコミュニティ・チャイルドケア・センターに着目し、設立経緯と求められる役割の変遷について、明らかにすることである。

乳幼児ケアと就学前教育の拡充は、持続可能な開発目標(SDGs)に掲げられ、早期介入と社会的・経済的コストの削減、貧困削減や不平等の緩和、初等教育への準備などから重要視されている。また、就学前教育において、非認知能力を育てる重要性と特にその貧困層への効果について分析されている(Heckman & Savelyev, 2012)。

本稿の対象国であるマラウイにおける乳幼児ケアと就学前教育は、1960年代後半にキリスト教会が都市部に有償のプレ・スクールを開園したことからはじまるとされる(Kholowa & Maluwa-Banda, 2008)。その後、都市部を中心にプレ・スクールが増加していった。1970年代には、当時のコミュニティ開発・社会福祉省が乳幼児ケアと就学前教育の支援を始めたが、非常に限定的であった。1980年代に、ユニセフの支援を受け、コミュニティ・チャイルドケア・センターは3県の農村部に設立された。しかし、運営はコミュニティに委ねられ、維持が難しかった。1990年代に入り、政府はHIV/AIDSの予防や治療と孤児のケアを目的に、コミュニティ・チャイルドケア・センターの設立を促した。1990年代には、都市部に有償のナーサリースクール(当初のプレ・スクール)、農村部に無償のコミュニティ・チャイルドケア・センターという2つに大別されていった。2003年に政府は初めての幼児期の発達に関する政策を承認した。その後、2006年の修正、2015年の大幅な修正を受け、2017年に完結した。コミュニティ・チャイルドケア・センターは、2006年には6240施設であったが、2018年には12,220施設と約2倍に増加した。

本稿では、2022年9月に、コミュニティ・チャイルドケア・センター10施設を訪問し、設立経緯と役割について調査を実施した。訪問した施設のうち、一番設立が早かったものは1999年であった。しかし、コミュニティによる維持は難しく、開園と閉園を繰り返し現在に至っていた。設立当初は、孤児のケアが中心であったが、2000年以降、ケアだけではなく、就学前教育施設として、小学校の入学準備のための教育を求められるようになってきた。残り9施設は、2004年以降に設立されていた。多くの施設の設立経緯は似通っており、①創設者はコミュニティで子どもたちがただ遊んでいることを問題視する、②自宅で子どもたちを集めてお世話する、③子どもたちにアルファベットや数字を教え始める、④施設を設立することをコミュニティに相談する、⑤創設者を支援する保育者が現れる、⑥コミュニティやドナーが施設を建設する、もしくは、教会などの既存の施設を使用する、⑦コミュニティ・チャイルドケア・センターが設立する、⑧創設者が高齢になり、若手の保育者が支援し始めるという経緯を辿っていた。コミュニティ・チャイルドケア・センターは、政府が設立を促したことや世界的な就学前教育の重要性の高まりを受け、また、少なからずドナーの影響があり、農村部で拡充してきた。また、当初は孤児のケアに焦点を当てられていたが、現在は就学前教育としての機能を求められるようになってきた。

参考文献

- Heckman, J., Pinto, R., & Savelyev, P. (2013). Understanding the mechanisms through which an influential early childhood program boosted adult outcomes. *American Economic Review*, 103(6), 2052-2086.
- Kholowa, A. C. F., & Maluwa-Banda, D. (2008). Early Childhood Education and Development in Malawi: Major Challenges and Prospects. *The Zimbabwe Journal of Educational Research*, 11-21.